

令和 3年 2月 11日

研究科長 殿

審査委員

主査

成瀬 秀夫

副査

小山 浩司

副査

橋本 昇



学 位 論 文 審 査 報 告 書

学 位 申 請 者	保健医療学研究科 保健医療学専攻 平成 30 年度入学 氏名 手島 遼太	学 籍 番 号	5218002
申 請 学 位	博士(柔道整復学)		
学 位 論 文 題 目	男子サッカー選手における腰痛と姿勢に関する研究		
成 績	合 格		
審 査 期 日	令和 3年 2月 9日 ~ 2月 11日		

注 1 論文審査の成績は、合格又は不合格とする。

2 学位論文審査要旨を添付すること。

学 位 論 文 審 査 要 旨

審査委員

主査 成瀬 秀夫

副査 小山 浩司

副査 橋本 昇



学位論文提出者

保健医療学研究科 保健医療学専攻

平成 30年度入学

氏名 手島 遼太

学位論文題目

男子サッカー選手における腰痛と姿勢に関する研究

学位論文審査の要旨

腰痛は、国民の8割が人生に一度は経験するといわれ、令和元年度の国民生活基礎調査における有訴者率で男性で1位、女性で2位と男女とも上位を占めている。また、スポーツ選手の腰痛発生割合が高いことも知られている。スポーツ選手が腰痛を罹患することにより、競技パフォーマンスの低下や試合を欠場せざるを得ない場合も生じている。

本研究は高校男子サッカー選手を対象として、腰痛とくに原因が特定できない非特異的腰痛の要因について、姿勢、体幹筋および身体特性との関連性を明らかにした研究である。

姿勢(脊柱アライメント)の測定は、非侵襲的で測定が簡便かつ信頼性が担保されているIndex社製のスパイラルマウスを用い、立位・前屈位・伸展位における胸椎後弯角度・腰椎前弯角度・仙骨傾斜角度を測定している。また、姿勢を安定保持するための機構として体幹筋とくに体幹深層筋のStabilizer機能に着目し、腹横筋および腰部多裂筋について、柔道整復師の臨床現場でも普及している非侵襲的な超音波画像装置により測定している。さらに、身体特性として、とくに股関節の関節可動域に着目し、ゴニオメーターを用いて股関節の関節可動域について先行研究により信頼性が担保されている方法で測定している。

これらの測定結果について適切な統計処理を行い考察している。

姿勢(脊柱アライメント)については、過度の胸椎後弯(いわゆる猫背姿勢)と腰痛との関係性が認められた。体幹深層筋については、腰痛群では腰部多裂筋の収縮率の減少がみられ、また腰痛群では腰椎と仙骨の動きの連動性が失われていることから、腰部多裂筋が体幹の安定化機構として働いていることが示唆された。身体特性とくに股関節の関節可動域については、股関節の伸展可動域制限と腰痛との関連性が明らかにされた。

本研究により、スポーツ選手の腰痛と姿勢・体幹深層筋・身体特性との関連性およびその評価測定法が明らかにされた。これらはサッカー選手をはじめとするスポーツ選手の腰痛の予防や、柔道整復師の臨床現場におけるスポーツ選手の腰痛の治療並びに指導管理に有用であり、十分に学位に値する論文であると考えられる。

(主論文掲載誌)

「Relation between low back pain and physical characteristics in high school male soccer players」

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine

2021.9.25 Vol..10, No.5 掲載予定